

「銀行は私を殺したいだろうが、私が銀行を殺す！」

1835年1月30日、アメリカ第7代大統領アンドリュー・ジャクソンは議院の議場で行われたある議員の追悼式に参列していた。そのとき、一人のイギリス人の元塗装工がジャクソンの後を密かにつけていた。元塗装工の名はリチャード・ローレンス。彼はポケットに、銃弾が込められたピストルを二丁忍ばせていた。

ジャクソン大統領が議場に入ったとき、ローレンスは少し離れた場所で好機をうかがった。ローレンスは大統領が追悼式の後で必ず通る2本の柱の間に移動し、身を潜めた。そして、大統領がそこに入った瞬間、彼は通路に飛び出し、**わずか2メートル足らずの至近距離から引き金を引いた。**

だが、弾が出なかったのだ。人々は騒然となったが、軍人生活の長かった67歳の大統領は、この暗殺者の前で泰然と杖を振り上げた。**ローレンスはすぐさま二つ目のピストルの引き金を引いた。だが、これも弾が出なかった。**幸いにも、ジャクソン大統領はアメリカ史上初の暗殺された大統領にならなくて済んだ。**二つのピストルが両方とも不発弾である確率はわずか12万5000分の1**だそうである。

ローレンスは、32歳、自称イギリス国王の正当な王位継承者であり、アメリカ大統領が彼の父親を殺し莫大な遺産相続権を奪ったと語った。しかしその後の**裁判では、わずか5分で精神障害者だと判定され、法的責任を追求されることはなかった。**

この後、「精神障害」は各種殺人犯が罪を逃れるための最適な口実となった。

この暗殺未遂事件は、ジャクソン大統領が最後の国債を償還した1835年1月8日の直後の1月30日に起きている。

『ロスチャイルド、通貨強奪の歴史とそのシナリオ』